

平成 27 年度岡山 E S D 推進協議会
岡山 E S D プロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 見て、聞いて、体験するフェアトレード

団体名 岡山フェアトレードの会

担当者名 野本 恭子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

(1) 例会の開催

岡山フェアトレードの会事務局のあるコットン古都夢（岡山市北区出石町）にてメンバーの例会を実施し、担当の内容について取組みの実施状況の状況共有と取組み内容についての話し合いを行った。

4月16日（木） 13～14時	第6回例会 フェアトレード、フェアトレードコーヒーについての勉強会等。
5月8日（金） 13～14時	第7回例会 フェアトレードチョコレートに関する勉強会等。
6月5日（金） 13～14時	第8回例会 岡山でのこれまでのフェアトレードの普及、販売動向についての勉強会、話し合いの実施。
7月16日（木） 13～15時	第9回例会（参加者：9人） 岡山フェアトレードの会の広報について話し合いの実施。
7月28日（木） 15～18時	第10回例会（9人） 設立趣意書についての話し合い、今後のスケジュールについて情報共有と話し合いの実施。
9月7日（月） 15:15～17:00	第11回例会（参加者：11人） 岡山フェアトレードの会の運営体制について協議。「日本のフェアトレード問題と方向性」についてのレクチャー。（講師：奥津代表）
10月29日（木） 14～16時	第12回例会（参加者：11人） チョコレートワークショップ、マップ作り、ロゴ制作についての打合せ。「オーガニックコットン」についてのレクチャー。（講師：奥津代表）
11月19日（木） 10:30～12:30	第13回例会 コーヒーの産地、コーヒー豆の原価等についてメンバーが情報提供し、小売価格や流通などについて話し合った。
12月17日（木） 14～16時	第14回例会（参加者：8人） 1月のチョコワークショップについての情報共有、マップ作りの役割分担やスタッフ募集、ロゴ制作について打合せ。

1月21日(木)	第15回例会 14～16時	1月24日のチヨコワークショップについて具体的な打合せ。役割分担等の実施。
2月18日(木)	第16回例会 14～16時	ワークショップ作り、店舗情報の収集状況について情報共有。ワークショップの基本的な考え方についてのレクチャー。(講師：奥津代表)

(2) 他団体との連携等

① イベント等の出演・出前講座

ア) 「おかやまフェアトレード」への出演/5月24日(土)
主催：岡山県国際交流協会 共催：JICA 中国
岡山フェアトレードの会メンバー(守都)がパネリストとして事例紹介の実施とパネリストがカクシヨソへ登壇。
イ) ESDカフェでの話題提供/6月18日(木)
岡山ESD推進協議会主催のESDカフェフェアトレードについての話題提供とチヨコレートジャーニー(チヨコの作り方を学ぶゲーム形式のもの)を実施、参加者との話し合い等を行った。(大井)
ウ) 人権フェアティブアル/12月7日(日)
主催：岡山市・岡山市教育委員会等
岡山ユニセフ協会出展ブースにおいて、岡山フェアトレードの会のチラシを配布。
エ) 岡山市立東山公民館のESD講座「フェアトレードでチヨコバナナを作ってみよう」(主催講座)での出前講座/1月30日(土)
公民館の依頼を受け、岡山フェアトレードの会として「チヨコバナナを作ってみよう」ワークショップの前に、チラシを交えたフェアトレードの出前講座を実施した。(片岡)

② 広報

ア) World Kitchenへの出店とフェアトレードの広報/8月13日(木)
フェアトレードコーナー・紅茶のゼリー販売、フェアトレードの広報実施
イ) 有機生活マーケット「いち」での広報/9～11月
・フェアトレード認知度についてのアンケート実施
ウ) 「わいわいESDラウンド」での広報/2月21日(日)
主催：岡山ESD推進協議会・岡山市
エ) 6月から岡山フェアトレードの会Facebookページを作成、公開。
いいね数85(2016年2月末)

(3) カカオからチョコレートを作ってみよう！ワークショップ

主催：岡山フェアトレードの会 共催：ネグロスキャンペーンおかやま

日時	2016年1月24日（日）
場所	岡山市立岡輝公民館
内容	<p>「カカオからチョコレートを作ってみよう！ワークショップ」</p> <p>参加者：午前→24人、午後→36人</p> <p><午前></p> <p>ア) NPO 法人 APLA 野川未央さんの講義と情報提供</p> <p>イ) 岡山県立岡山一宮高校のフェアトレードの取組み紹介</p> <p>ア、イの情報提供の後、参加者が円になって全員参加型のパネルディスカッションを実施した。</p> <p>「あなたにとってフェアトレードとは？」等の質問に対して、参加者一人一人が回答し、それを他の参加者とシェアした。</p> <p>小学生から大人まで多様な年齢層の参加者がいたが、子どもの回答に対して大人が大きく頷く場面などもあり、年齢に関わらず参加者がそれぞれの発言・回答を尊重する雰囲気があり、楽しい雰囲気です。午前の講義とパネルディスカッションの時間を終えることができた。</p> <p><午後> ※2つのグループ（部屋）に分かれて実施</p> <p>①カカオからチョコを作ってみようワークショップ（13:00～14:30）</p> <p>講師：NPO 法人 APLA 野川未央さん</p> <p>APLA がインドネシア領パプアから仕入れているフェアトレードのカカオを使ってチョコレートを作るワークショップを実施。5つのテーブルに分かれて、カカオバター・カカオマスの湯せんの後、チョコを練って砂糖やミルクパウダーを混ぜて型に流し込んでチョコを作った。</p> <p>②おいしいコーヒーの淹れ方ワークショップ（13:00～14:30）</p> <p>講師：カフェ・カンパニー株式会社 菅淳雄さん</p> <p>③交流会（14:30～15:30）</p> <p>14:30～2つのグループが一緒になって交流会、チョコ・コーヒーの試食作ったチョコレート、コーヒーを試食しながら、野川さんよりチョコレートの作り方・生産地の現状や流通等についてのレクチャーを実施。</p>

<p>2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会づくりや、貿易・経済の視点から生産者と消費者の公平な関係性を考え、メンバーやイベントの参加者が新たな気づきを得られるように情報提供の内容を工夫した。 ・単にフェアトレードについて学び、良さを知らただけでなく、フェアトレードを取り巻く問題や課題についてもあわせて考えることで、多様な見方や評価をふまえてフェアトレードを推進することをメンバー同士で確認した。 ・経済、社会、環境のバランスを念頭において、身近なこと（買い物）から自分にとってできることを提案するように例会や出前講座、勉強会などを実施した。 ・チャコレポートを作るワークショップや貿易ゲーム等といった体験型の学習を行うことで、参加者が課題を自分自身で体験できるような工夫を行った。 ・参加者同士のコミュニケーションが取られるように、ワークショップの際に小さなグループにし、参加者全員で丸くなくなって話し合うなどの手法の工夫を行った。
<p>3. 取組の成果（参加者の変化、感想など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアトレードに関する基本的なことについて、岡山フェアトレードの会メンバーもイベント参加者も知識が少なかったことから、まず現在の経済や流通における問題点を参加者が認識した。それによって、それぞれの普段の買い物において見方を変えることを提案し、参加者から「買い物の時原産国の表示を注意深く見るようになった。」「フェアトレードの商品なのかどうか確認してから買うようにする。」といった感想をもらっている。 ・フェアトレードに興味を持つ学生が、他の学生からの紹介によって年度途中参加するようになった。岡山ESDプロジェクト参加団体交流会においても、学園祭でフェアトレードについて紹介したい、という声をかけられるなど、学生が興味を持ってくれるようになりつつある。買い物という、誰でもできることで、なおかつ手ごろな価格のものもあることから考えやすい様子がある。
<p>4. 今後の課題と展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアトレードの認知度は日本全体としても3割未満程度（ピエールツリーによる）であり、岡山でも同程度かさらに低いことが考えられる。（統計そのものがない。） ・今後、大学や高校の授業の中で取り上げてもらうことや、サークル等の課外活動をする学生との連携を模索していく必要がある。 ・フェアトレード商品を扱う店舗が増え、取扱商品数を増やすことが消費者の関心を高めることにつながるので、取扱企業等との連携が今後必要になってくる。マップの作成や配布等を今後進めていく必要がある。 ・フェアトレードを伝えていくための体験・体感型の教材を使った出前授業等の実施回数を増やしていく必要がある。